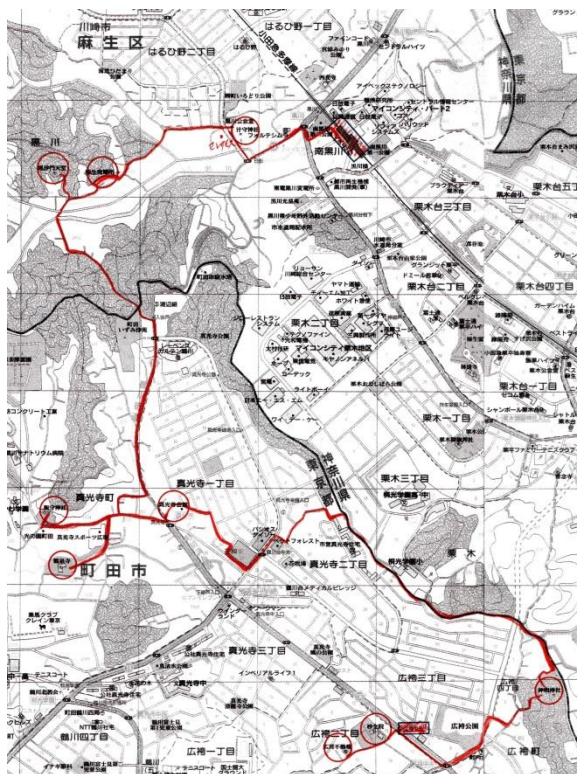


【雑学】町田を歩くー4（広袴・真光寺から黒川へ）

広袴・真光寺と黒川は小高い丘陵で境を接しているお隣さんだが、広袴・真光寺は東京都町田市の鶴川地区にあり、幕末には小野路村を長とする組合村として真光寺・広袴と一緒に配下に有った黒川は神奈川県川崎市麻生区の柿生地区にあり他県同士となりました。今回のフィールドワークは鶴川駅より真光寺公園行きのバスに乗り「広袴中央」のバス停で下車、広袴にある寺社仏閣からスタートし、黒川までの訪ねた場所とルートは右図の赤丸と赤線で示しました。

《妙全院》町田市広袴 2-14-23



鶴川四丁目団地のほぼ坂下にあります。

曹洞宗不動山妙全院といい、寛永 12（1635）年の開基で、旧広袴村の住民の菩提寺です。『本尊 釈迦、木座像高八寸。現在は糸引観音を本尊としている。平安時代、楓王女、ゆえあって、この地に流罪になり、糸

を紡ぎ終われば罪を赦して都へ呼び戻すべしといわれここにきた。ところが、どれだけ紡いだらよいか聞いてこなかったの、ついに都に帰ることができず、それを宿命と知って、二五の観音菩薩を刻んだが、その一体がこの寺の観音像であるとの伝説がある。しかして、この伝説はこの地方の養蚕と結びつき、糸引き観音信仰となった〈町田市史より〉。』

《広袴不動尊》町田市広袴 2-14-47

国土舘大学鶴川キャンパスの真下辺りにある、妙全院所管の小さな不動堂です。

『その昔六部が、不動様を入れた厨子を下ろして休憩し、再び担ごうとすると重くて背負えなかったことから、お不動様は、この地にいたいのだと悟り、小さな社を建てて祀ったという言い伝えがある〈鶴川村誌〉』
[六部：回国巡礼僧]（歴史民族用語辞典）



広袴を通る鶴川街道は、鶴川団地群のある丘陵と鶴川・柿生を隔てる丘陵（鶴川台尾根緑道）の間を流れる真光寺川にほぼ沿っています。不動尊に別れを告げ、私たちは鶴川街道・真光寺川を横断して鶴川台尾根緑道方面に向います。

《神明社》町田市広袴町 444



広袴の住宅地を通り抜け、かなり急傾斜の道と石段を登ると神明社に着きます。『創建の年代は明らかではないが、嘉永7（1854）年の「村差出明細帳」に神明社とあり、『風土記稿』に小社の儀故旧来より神主無く、村内妙全院（別当）で守護していたとある。昭和22年氏子の労力奉仕により山を切り開き、現在の地に本殿覆宮、幣殿（洗心舎）、拝殿を建立して昭和二十四年十一月遷宮祭並竣功奉祝祭が斎

行された。昭和29年には宗教法人となり、さらに平成7年には拝殿が大改修された。』〈境内掲示板より〉

《鶴川台尾根緑道》

神社の裏山はすぐに鶴川台尾根道となります。右の写真ではフェンスの外側が川崎市で道路側は町田市です。フェンスの下手にはサッカーJ1の川崎フロンターレの麻生グラウンドがあり、古民家を改装したそば処 櫻屋もあります。緑道はこの道の先に続いて居ります。緑道は古くより利用されており、鎌倉古道早ノ道の尾根ルートと推定されています。



東京都と神奈川県
の県境にある緑
道。広袴の住宅群
が眼下に迫り、そ
の先には鶴川団地
や国士舘大学の鶴
川キャンパスが。



真光寺方面に向って尾根道を行くと、右下手に桐光学園の小中高一帯が現れます。この高校からはサッカーでは横浜Fマリノスの中村俊輔選手、野球では東北楽天イーグルスの松井裕樹投手が出ています。尾根緑道を下り、真光寺十字路に有る「スーパー三和・鶴川店」でトイレをお借りし、缶コーヒーなどで休憩となり、近くの真光寺会館へ立寄ります。

《真光寺会館》 町田市真光寺 1-27-1

(真光寺会館の由来、日露戦争後、真光寺は丘の中にある。村には知らない人はいない。五十戸程が農業を営み、皆、飯守神社の氏子であり、観泉寺の檀家である。公事は労力奉仕で進められ、隣村へは巾六尺の坂道を超えるか、土橋を渡る、歩く荷はかつぐか、駄馬、荷車で運ぶ。1908年(明治41年)、励精学校は廃校、鶴川尋常小学校が開校、文化の中心は大蔵に移る。

真光寺倶楽部は村人の文化交流の場として要望され、幸い多くの共有地を持ち、培われた奉仕の伝統により、励精学校の職員室を村人の肩で移築し、後に増築して完成する。・・・「表示板」による。) 現在は地区の自治会の会館として使用されている。



真光寺は今では、大型の新興住宅地として開発され大型店舗や近代的な住宅が立ち並んでいます。真光寺村の住民は皆、飯守神社の氏子であり、観泉寺の檀家であるのは一昔前の話でしょう。私たちは、再度、鶴川街道を横断して真光寺村の住民が皆、氏子であったという飯守神社へ向います。

《飯守神社》 町田市真光寺町 189



祭神は興津彦命^{おきつひこのみこと}、保食神^{うけもちのかみ}でいずれも農業神です。武蔵の総社である府中の大国魂神社の総社例大祭(くらやみ祭)に「飯物」を奉納してきたことから、この社の名前が起こったとも伝えられています。神社の裏山の斜面には領主の旗本・飯田次郎右衛門の屋敷があったとの伝承もあります。

続いて真光寺村の住民が皆、檀家であったという観泉寺へ向います。

《観泉寺》 町田市真光寺町 1210



曹洞宗の寺院で金光山観泉寺といい、当地の地頭飯田右馬之助昌有が大坂夏の陣で元和元年（1615）に戦死、子息飯田次郎右衛門が父の菩提を弔うために、僧存祝を開山として創建したといえます。観泉寺は武相卯歳観音霊場四十八ヶ所 45 番です。武相卯歳観音霊場は宝暦 9 年（1759）に開創したといえます。現在、真光寺というお寺はありませんが、建立したときは天台宗真光寺と称し、宗派を天台宗より曹洞宗に、寺名を真光寺から観泉寺に改めたと言われていることから、真光寺が村名として残ったと思われます。

次いで真光寺の信号まで戻り、鶴川街道沿いに登ると左手に、町田いずみ浄苑〈霊園〉が現れます。いずみ浄苑を過ぎたところから街道から別れて左手の山道に入ります。



この道が、江戸に行く近距離の布田道の名残とか。すぐに県境となり、黒川に入るとしばらくは静寂な田舎道となります。

《毘沙門天堂》 川崎市麻生区黒川

丘を下り、三沢川を渡り、さらに黙々と農道を上がってゆくと質素な毘沙門天堂が現れます。毘沙門天は北方を守るものとされ甲冑を着



けています。ここの像は甲冑を着けていない珍しい像といわれています。境内に建立されているお地蔵様群の首がありません。これは明治初期の廃仏毀釈のおり、破壊されたといわれています。

《柿生発電所》川崎市麻生区黒川 1554-2

最初は何でこんなところに水力発電所があるの？と思いました。川崎市の幹線の水道の落差を利用した水力発電所です。なるほど！川崎市の水道は相模川の水を相模原市と町田市を通り、長沢浄水場まで22km運んでいます。柿生発電所の場所の落差は約12mあるようで、最大680kwの発電をしています。その先の丘の上には汁守神社があります。



《汁守神社》川崎市麻生区黒川 1



神社の名前は、府中の六所宮（現大国魂神社）の「くらやみ祭り」の膳部の汁を、主祭神である保食神^{うけもちのかみ}が調理したのが由来と言われています。真光寺の飯守神社が大国魂神社の総社例大祭（くらやみ祭）に「飯物」を奉納してきたことから、ご飯と汁の対で、六所宮へ奉納してきたことが伺えます。

《セレスモス》川崎市麻生区黒川 172

汁守神社の眼下にはファーマーズマーケット「セレスモス」があります。セレスモス



（収穫する）というギリシャ語とアグリカルチャー（農業）のAの字を組み合わせた造語が店名です。

産直の野菜が人気でいつも賑わっているようです。JAセレス川崎の経営。ここで本日の

フィールドワークは解散となる。帰りは小田急多摩線のはるひ野駅か黒川駅を利用するのが便利のようです。

執筆：小林尚道